

稲山会

通信

第27号

2013年7月1日発行

発行人：斉藤雄二 発行所：稲門山の会事務局 TEL03-3367-3723 FAX03-3367-8150 ©稲門山の会1998

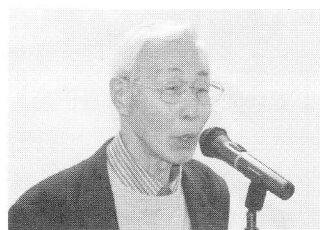
2013年 稲門山の会新年会報告

金子治雄（S41年卒）記

2013年度、恒例の稲門山の会の総会・新年会が2月2日大隈会館にて盛大におこなわれました。遠方在住のOBの方では、米沢から吉澤OB、那須から鈴木（精）OB、北海道から狩野OBが駆けつけてくれました。また今年は新たに倉川、高野（51年卒）の比較的若手のOBが参加され、OB会が若い世代に確実に引き継がれてゆくことは、嬉しいことです。更に今年は待望の現役生が参加しました。幹事長の増田君は就活のため、欠席でしたが、時、中戸川さんの2人の現役生が出席され、私達OB会の悲願である早稲田大学山の会の継続が果たされつつあり、希望が湧いてきました。今年も新年会は時間が経つのも忘れるほど世代を越えて、和気あいあいのうちに終わりました。特に年代の上のOBの方達は、益々お元気でした。

出席者（卒業年、会番号順）

昭和33年	高橋、上田、各OB
35年	小島、宮野、吉澤、各OB
36年	山下、西山、荒川、 山本（貴）各OB、上田OG
37年	加納、山本（道）、鈴木、篠原、 村田、打矢、各OB
38年	宇野澤、栗又、松村（啓）、 白倉、各OB
39年	真下OB
40年	笠原、梅崎、鈴木（精）、山崎、 長谷川、井村、各OB
41年	斉藤（雄）、金子、各OB
43年	太郎良OB
44年	丹治OB
45年	斉藤（延）、青山、各OB
46年	島田、豊田、各OB
47年	林OB
48年	松村（幹）OB
51年	倉川、高野、各OB
52年	狩野OB
現役	時、中戸川



▲まだまだ若い上田会長挨拶



▲まだまだ若い宮野OB乾杯



▲比較的若いOB達



▲最も若い現役二人

会員近況報告—2013年総会・新年会返信はがきより—

役員会

*この1年山にも登らず、病気もせず大過なく過ごしております。役員幹事の皆様のお役目ご苦労様です。盛会なることを祈っています。(S33高橋啓二) *加齢に伴う不整脈と診断され、登山禁止。60年間で332回(うち北ア147回)の山行もこれで終了しました。無念の涙で一杯の心境です。(S33清水正昭) *昨年夏、小四の孫娘と妻と三人で宗谷・礼文・利尻と数十年振りにおとずれ、レブンウスユキソウを見ました。(S34三ツ木信二) *変わりなく過ごしております。納見君、篠崎君のあと角田君の訃報に驚きました。他に先約があり失礼いたします。(S34小松雅美) *マンジャーレ(食べること)、カンターレ(歌うこと。これはナシ)、アモーレ(愛すること)を実行している日々です。(S35宮野準治) *久しぶりに出席します。左目が不自由になり、登山とスキーは遠くなりました。それでも、昨年は旅行を再開し、マッターホルンやモンブランと再会してきました。(S35吉澤章仁郎) *高齢者の福祉や子育て支援のボランティア活動に精を出しています。(S36堀正彦) *元気に山にも登っています。(2012年・八丈富士、木曽駒、守屋山、鳳凰三山等)。滝沢、吉田、新井OBといったメンバーとロライマ(南米)に行く為欠席します。皆様へよろしく。(S36清水保宏) *73才で百名山を完登、最後は会津駒ヶ岳となりました。本橋、打矢、池田、笠原等の方々のご支援のお陰です。今後は登りたい山に行きます。まず5~6月の後立山、白馬、五竜、鹿島槍、北海道の山々です。仕事はまだ社長をやっています。がんばる理由は会社を東証2部へ上場させ、従業員に安心してもらうためです。(S36広瀬舜一) *出席できず申し訳ありません。まだ現役で頑張っております。当日は社用があり、欠席させていただきます。皆様によりよくお伝え下さい。(S37東正躬) *＜欠席理由＞この時期、北海道へ雪原逍遙に出かけることが決まっていますので残念ですが欠席します。＜近況＞今年は後期高齢者の仲間入りですが、年齢相応の山歩きをつづけています。昨年は、夏の北海道十勝の山々を楽しみ、秋にはネパールへトレッキングに出かけ、ヒマラヤの山並みを間近に眺めてきました。(S37恩田和夫) *1月22日よりパタゴニアへ妻と行ってきます、2月4日の帰りの予定ですので欠席致します。皆様によりよくお伝え下さい。(S37竹内敏) *昨年は個展、ヒマラヤのトレッキングと忙しい年でした。(S38栗又功雄) *雪の中で元気にしています。(S38小久保雅代) *元気に過ごしております。昨年に引き続き、出席しようと思っておりましたが、この日はあいにく仕事があり、本当に残念に思います。(S38弘海都子) *1/25~2/10までギアナ高地(南米)へ出掛けますので。皆様によりよくお伝え願います。(S38吉田稔) *卒業以来継続している同期会の昨年度は九州2泊3日の旅行を実施。新年は1月25日に集まります。(S39小林伸吉) *貸農園での野菜作り、福岡近郊の山登り等で、のんびり過ごしています。(S39高森淳一) *会社経営も3年前に引退。最近美術志向で油絵から、むしろ仏像彫刻に専念。今年は現代彫刻に挑戦したいと思っています。5年後に個展を計画。(S39中込治文) *北海道、キロロでの初滑り、2月は志賀高原とスキーを楽しんでいます。50周年の新年会には出席したのですが、もう57年とは驚きです。*昨年、納見さん、篠崎さんと親しくお世話になった先輩の訃報が続き寂しさで一杯です。更にアフリカ遠征の和田さんのことも心配で心が痛みます。「一期一会」を切に思い会に参加したかったのですが、、、皆様によりよくお伝え下さい。(S40井上昌代) *大峯山の奥駆けをやりたい。(吉野川→熊野本宮)。夏に北海道の山に行きたい。同行してくれる方がいれば有難いです。(S40笠原豊) *1月17日、同期で高尾山に初詣で行きました。頂上は山ギャルで一杯でした。現役の山の会が山ギャルで一杯になるのが今年の初夢です。(S41斉藤雄二) *和田先輩の行方不明の件、本年は年賀状が届かないと思っていましたが、「お知らせ」を見て驚いています。無事

解決することを願っています。(S41海野俊男) *昨年9月より年金暮らしになりました。山の方は最近やや不調です。体力的にきつくなってきました。年齢と上手くつきあう必要がありそうです。和田先輩の行方不明には驚かされました。早く見つかることをお祈りいたします。(S42松浦正道) *和田さんの情報におどろいています。申し訳ありませんが、別の予定があり出席できません。(S42久富征夫) *近年腰、膝が痛くなりました。しかし昨年は久し振りに単独でテント生活がしたくなり、北沢峠に行き、甲斐駒、仙丈岳に登ってきました。また最後の3,000mとして御岳にも行ってきました。(S43上原敏行) *山の会の先輩の皆様方と5人で1月25日～2月24日の間ギアナ高地(南米)とパタゴニアに行きます。残念ですが、今回は欠席とさせていただきます。(S46新井昭夫) *この冬、スノーシューハイキングを始めました。デビューは奥日光戦場ヶ原。(以前はクロスカントリーでよく訪れた場所です。)(S47中村牧生) *昨年9月末で宇部市役所を退職しました。最後の3年間は副市長として頑張ってきた。登山復活といきたいところですが、10月から外国人の受け入れの組合で海外を飛び回っています。山は遠くなりました。

(S48西山一夫) *マレーシア在、6年目になりました。(S48原四男美) *稲山会通信。(第26号)、楽しく拝読させていただきました。上田代表の「対戦型ゲーム」に目が留まると、今は遠い学生時代に雀荘でしっかり鍛えていただいた上田先輩の面影が彷彿としてよみがえり、思わず「ニヤリ」としてしまいました。小生は一昨年5月に県を退職し、現在「日本赤十字福井県支部」に勤めています。(S50小竹正雄) *大学卒業後、長い間、皆様にはご無沙汰しております。数年前から有機農業で野菜を栽培しています。今回は出席させていただきますので、皆様にお会いできることを楽しみにしています。(S51倉川秀明) *昨年は1年間山梨県、現在は岐阜、4月からは愛知県に異動する予定となっております。各地で様々な工事に携わっておりますが、同時に様々な山にも登っております。今後も細々ではありますが、継続してゆきたいと思います。

(H17佐々木直之)

投稿：南米山行記 (2013年1月25日～2月24日)

新井昭夫 (S46年卒)

今回の南米行きの発端は、以前からスペイン語を習っていた清水保宏OB (S36) と南米に興味を持っていた吉田稔OB (S38) が2010年4月10日(日)の山の会の春のハイキング・弘法山の頂上で桜を眺めながら、「何か、聞くとところによると、山の会に南米に詳しい男がいるらしいな。彼にガイドを頼んで南米に行ってみようか」が発端である。その南米に詳しい男は、新井の1年後輩の豊田紳二OB (S47) で、豊田氏が行くなら、その頃は仕事もリタイアしているので、この機会に行ってみようと思った。幾つかの候補が上がったが、最終、ギアナ高地とパタゴニアと決定。その後、豊田OBが仕事の関係で参加出来なくなり、吉田OBの友人の奥様・オートバイで地球の極地を飛ばす、風の書家・月風かおりさんが参加することになり、又、南米に詳しい滝沢信一OB (S36) も、ギアナ高地なら参加するとの話となり、総勢5名となった。但し、パタゴニアは、清水OBと月風さん、新井の3人で行くことになった。

1ヶ月の海外の山歩きとなると、良く言われるが、計画が決まれば半分完成したようなもの。即ち、事前の準備・手配が大変だし、重要だということである。出来るだけコスト・セーブの為、日本の旅行社は使わずに、①日本・南米のチケットはネットで安いのを買う。アトランタ経由のデルタに決定②ギアナ高地のRoraima山&Angel Fallは、日本の業者は経由せず、直接現地の専門業者にメールで予約を入れる。ネットで調べて、ヒマラヤ観光のアドバイスも貰い、ドイツ系のBackpackers Tour社 (BT社) に申し込んだ。③パタゴニアは清水OBが親しかった伊藤忠の元チ

り会社社長の紹介で日系のサンチャゴに本店を構える三谷Travel経由でツアーを組んで貰った。さて、②のギアナ高地がBT社からスムーズに返事が無く、中々Fixしなくて、航空券の手配も完了し、パタゴニアの行程も決まってしまうかなり焦った。1月25日成田発だが、ギアナ高地の行程が決まったのは年が明けてから。Roraima登山は登山道もしっかりしていて、キャンプ場も水場の近くで整備されている。問題は、Roraimaの登山基地のSanta Elenaにどのように入るか、Roraimaが終わった後、Angel Fallへの移動をどうするかが課題だった。

RoraimaとAngel Fall

第1日（1月25日）成田発15：30でアトラントの乗り継ぎ時間を含め、21時間45分を掛けてカラカスに22：15着。空港近くのHotel泊。第2日（26日）カラカスから飛行機でプエルト・オルダスへ、プエルト・オルダスからサンタ・エレナへはToyotaのPradoで620kmを10時間弱で走り22：30ごろ宿に着く。第3日（27日）明日からの登山に備え買出しと休養日。

第4日（28日）この日から5泊6日のRoraima登山。登山口のParaitepuiで入山手続きを済ませ、ガイドと10人のポーターでTokRiverの初日のキャンプ場まで4時間、12kmを歩く。初日は傾度も低く、しっ



▲RORAIMAへ出発

かりした登山道。キャンプ場は正面にKukenan、後方にブラジルの山を望める広々とした場所。テントは二人・二人・一人の3張り。洋式便器を備えたトイレ・テントは快適。夜中は星空・月明かりが素晴らしい。第5日（29日）この日は1,870mのBaseCampまで、11kmを5時間40分で歩く。TokRiverのキャンプ場が1,050mなので820mの登り。途中、TokRiverとKukenanRiverを靴を脱いで、滑り止めの靴下を履き渡渉。沢山の花・植物を眺めながらのサバンナの中の歩行は気持ち良い。ひとやま（丘）を越えていよいよ着いたかなと思ったら、又、丘が出てきて最後は暑い中苦勞させられて12：30にBaseCampに着く。第6日（30日）いよいよTableMountainの台地へ。2,700mの台地まで870mの登り。6kmを5時間25分掛けて登る。途中、垂直に聳え立つ岩壁の側を歩く。見上げると首が痛い。下の岩は流石に固い。12：15台地着。テント場は、岩の間のテラス。テント場をHotelと呼んでいる。我々はHotel Indio。テントを張って一休み後2,810mの最高地点までTableMountainの散策。第7日（31日）昨日とは違うルートでTableMountainの台地の散策。Windowと呼ばれるViewPointで万歳。ブロッケン現象が現れる。ジャグジーと呼ばれる池でパンツ1枚になって水浴。この日も沢山の台地での写真を撮って、昨日のBaseCampに戻る。第8日（2月1日）Roraima5日目のこの日は、初日のTokRiverのCamp場まで。昨日の下山中、30分位、ちょっと雨が降っただけで、KukenanRiverの水嵩が増して、ポーターに荷物を預けてパンツ一枚になって泳いで川を渡る。のんびりした下山。虹やトカゲの出迎え。珍しい木々・花を眺めながらの楽しい歩き。夜中はホタルが流れ星のように飛んでいた。第9日（2日）登山口へ下山。水晶を持ち出していないかの検閲を受け、途中のSanFranciscoと言う街で昼食を取って宿（BT社のPosada）に戻り、Roraima登山完了。

第10日（3日）セスナでCanaimaへ移動。セスナから見る、サバンナの中を蛇行して走る川が

美しい。第11日（4日）AngelFallの展望台の登山口まで70kmを4時間25分掛けての、周囲のTableMountainを見渡しながらの快適なボート週行。979mの滝は見ごたえがある。滝壺は水が途中で飛んでしまうので水量も少なく泳げる。夜はジャングルの中でハンモックで寝る。この滝は早稲田の探検部のOBが隊長になって、山岳同志会、登攀クラブ蒼氷のメンバーで1984年11月23日に登ったと本に書いてあった。第12日（5日）この日にカラカスに戻るフライトがキャンセルになってプエルト・オルダス泊を余議なくさせられる。

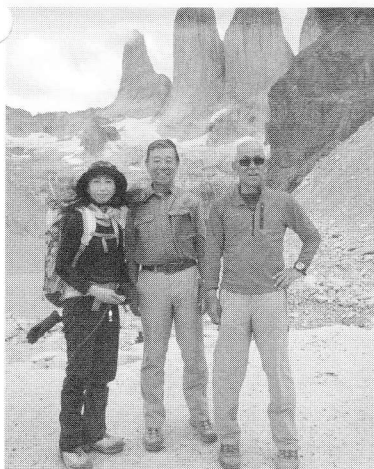


▲ANGEL・FALLにて

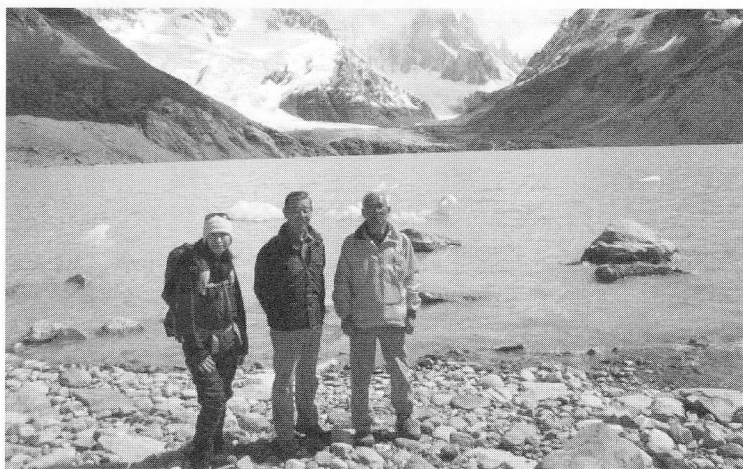
第13日（6日）カラカスに戻り解散。吉田OBはカラカス泊で翌日ロスへ、滝沢OBはキトーへ、パタゴニア組はサンチャゴへ向かう。

パタゴニア・トレッキング

リマ経由サンチャゴ入り。2月7日、8日とサンチャゴで過し、9日にパタゴニアを空から眺めながら、飛行機で南米大陸南端の街プンタアレナスへ、そして、プンタアレナスからバスでパイネの登山口プエルトナタレスへ。10日からパタゴニアのトレッキングの開始。10日はガイドの出迎えをホテルで受け、初日のTorres Del Paineは往復19km、8時間15分。最後の岩場の45分の登りがきつかったが素晴らしい眺めで癒される。11日は前日のラス・トーレス小屋からパイネ・グランデ小屋へ移動。途中、パイネ大滝、及び、展望台でパイネ山群を展望。クエルノ・デル・パイネの角（つの）の山が目の前。12日はフランス谷からパイネ・グランデの展望台へのトレッキング。往復23.2kmをのんびり7時間50分で歩く。パイネ・グランデは雲に掛けて時々姿を見せる程度。氷河の迫力は凄い。時々雷鳴のような崩落がある。2年前の山火事の後が痛々しいが、それでも新しい木々が生え始めている。13日のこの日はGrey氷河。往復22km、ゆっくりと8時間半のトレッキング。8時に出発したが、午前中の風は凄かった。飛ばされそうになる。2時間程歩いたら樹林帯に入り風を気にせず歩ける。レフヒオ・グレーの小屋の先の先端まで行って写真撮影。船のように浮かぶ青い氷河が美しい。帰路は風も収まってパイネの最後のトレッキングを惜しみながらパイネ・グランデ小屋へ戻る。



▲TORRES DEL PAINEにて



▲TORRES湖とTORRE (3,102m) をバックに

14日にプエルトナタレスへ戻り、15日に、いよいよ、アルゼンチン入り。8:00出発のバスで6時間掛けてアルゼンチンのカラファテへ14:20着。カラファテでアルゼンチン・ビーフを食べ、18:30発のバスで3時間掛けてFitzRoyの登山基地のチャルテンへ21:30着。16日はセロ・トーレのトレッキング。19kmを8時間30分掛けてのんびり歩く。Torre (3,102m) は雲で覆われ見えたのは少しだけ。Soloは台地上の山に雪が着いて何時も見える。TechadoNegroは黒い山で北鎌尾根の様な稜線を持った山。歩いている樹林帯も上高地を歩いている様な感じを受ける。17日のこの日は、いよいよMain EventのFitzRoy (3,405m)。17.4km、8時間10分のトレッキング。Lago De Los Tresの展望台への最後の1時間がしんどかった。展望台ではFitzRoyは雲の中。風があつて寒い。1時間程展望を楽しんで下山。下山途中15:00頃、FitzRoyが全貌を見せて呉れる。振り返りながら何度もFinal Shotを撮る。18日はカラファテへ戻り、19日にペリト・モレノ氷河。20日にブエノス・アイレスへ、20日、21日とブエノス・アイレスで観光を楽しみ22日にブエノス・アイレスを立ち日本時間で2月24日の16:20成田に戻る。



▲雲のかかったFITZROY (3,405m)

さて、パタゴニアに関して、高木正孝の「パタゴニア探検記」を読み返した。一升酒を飲み、厳冬の富士山をパンツ一枚で滑降する超人が、1962年に48歳で南太平洋のタヒチ島近くで行方不明になった。この探検記の最後の記述が「この美しいパタゴニアが去りがたい。しかしヒマラヤにはこんなことはなかったはずだ。いったい私はどうしたというのだろう。アルプスには山と人がいた。人っ子一人いないこのパタゴニアで、別れがこんなに悲しいのは、自然のあまりの美しさのためかも知れない」。

以上

投稿：(思い出) 赤石岳遭難救助活動

倉川秀明 (S51年卒)

私は在学中に、山の会ではないが後輩にあたる友人の遭難救助をしたことがあり、そのときの経験が、現役生やOBの方々の山行の際に、お役に立つかもしれないと思い、報告させていただきます。ただし、すでに30数年以上前のことなので、記憶も薄れていて、不十分な点や誤りなどがあるかもしれませんが、お気づきの方は訂正してくださるよう、お願いいたします。

1978年5月に、1年後輩のA君から倉川の自宅に連絡が入った。友達と数人で山に登っている途中で、友達の一人B君が足を滑らせて尾根から転落したから、助けに来てくれとのこと。私自身は、B君には面識がなかった。また、私はA君たちが登山をしていることは事前の連絡もなかったので、全く知らずにいて、この突然の電話で初めて事態を知った。

遭難場所は、南アルプス赤石岳の東尾根。この時期だと山頂付近は雪が深いはずだ。A君に聞くと、一行は登山の経験が浅く、雪山登山の経験はなかった。今回も簡単な登山だと思って、冬山のための装備をほとんど持たずに登っていたようだ。一行は、登るにつれて積雪が深くなって

きたので、登頂を諦めて引き返し始めた狭い尾根の途中で、B君が雪の積もった箇所を踏み抜いて、谷へ滑落したとのことだった。

これは、山の会の遭難事故ではないが、非常事態のため、山の会のOBの方々、現役のメンバーに相談をして、すぐに出動できる者を集めて、救助に行くことにした。最終的には、OBの豊田紳二さん、名達一彦君、早川明利君、倉川の4名が行くことになった。

それと同時に、静岡県警に連絡。静岡県警は、地元の山岳会に連絡して、捜索隊を編成するとのことであった。また、遭難者の両親に連絡して、山の会、地元山岳会、警察とで捜索隊を組んで、現地にすぐ向かうことを告げる。

翌日、車で出発して、浜松に到着。連絡をくれたA君と遭難者のご両親とも面会。ご両親は、下で待機することとなった。静岡県警に着くと、警察が自衛隊のヘリコプターを用意してくれていて、自衛隊駐屯地まで行って、地元の山岳会の人数人と山の会の4人、A君が2台のヘリコプターに乗り込んで、すぐに出発した。

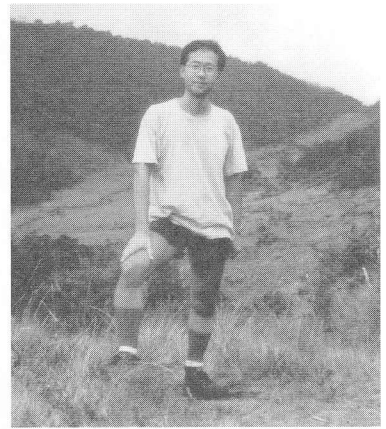
ヘリコプターは、雪に覆われた細い尾根のわずかに開けた所に着陸。私達を降ろすと、すぐに飛び立って、遭難地点の付近を偵察してしてから、基地に戻った。私達は、すぐに遭難者を発見すべく、東西にのびる尾根を登っていくと、まもなく滑落したらしい現場を見つけた。積雪の深い北側の谷は、下の方で右に湾曲していて、遭難者の姿は見えない。谷の傾斜がきつく、距離も相当あり、簡単には降りていけないので、捜索は翌日として、元の場所に引き返し、無人の避難小屋に泊まって、翌日に備えた。

翌日早朝から捜索開始。再び現場に来ると、それまで勇ましいことを言っていた地元山岳会の方は谷へ降りていこうとしないので、山の会のメンバーだけで下りていく。豊田さんから、「雪崩による二重遭難の危険があるから、上部の雪の状態に注意しながら、立ち木のある谷の端を降りるように」と指示が飛ぶ。

先頭の早川君が湾曲した谷の先で、遭難者を発見。尾根上から300~400mぐらいの地点か。残念ながら死亡していた。遭難者を寝袋に入れ、ザイルで上から引き上げる。急斜面のため、大変な作業だった。尾根上に引き上げた後、遭難者を背負子にのせて、担いで尾根を下る。背負子が横に振られないように、背負っている者の前後に一人ずつ立ち、ザイルで背負子を引いて支えながら降りる。担ぐ者を次々と交代しながら下山し、遭難者をご両親の元に届けることができた。緊急の事態であり、山の会のメンバーの遭難ではなかったが、豊田さんをはじめ山の会のメンバー、地元山岳会の方たち、警察の方々、自衛隊が駆けつけてくれて、お互いの協力関係も良好で、二重遭難や他の事故、トラブルもなく、遭難救助活動を終えることができた。今後、この経験が遭難者の救助あるいは救助協力に参考になれば幸いである。

なお、私は現在有機農法による野菜栽培を行っています。農薬や化学肥料は一切使っていません。季節の旬の野菜セットを宅配便でお届けしています。毎週、隔週、月1回などご希望の頻度で、また種類や量もご希望に沿ってお届けできますので、興味のある方はぜひご連絡下さい。

連絡先：090-6192-8910 住所：埼玉県越谷市東越谷4-26-30 倉川秀明



▲若かりし頃



▲近況・有機農業家に転身

山とスキーの会「乗鞍高原スキー」の報告

新井昭夫（S46年卒）記

30年程前に大国さん、市村さんの発案で始まった、「借り切りバス」での「山とスキーの会」を今年も乗鞍高原で開催し、楽しんできました。

日 程：3月1日（金）17：00東京駅丸の内北口出発、現地「みたけ荘」着21：10

3月3日（日）「みたけ荘」発13：00、東京駅着 17：10

参加者：市村夫妻、大国夫妻、三ツ木夫妻、打矢、本橋、佐藤（嘉）、斎藤（雄）、新井他
合計19名

例年は、東京駅発を19：00としていたが、今回は、ゆっくり温泉に入る為に、出発を17：00に早めた。

スムーズに約4時間で宿に到着し、その日の夜は、ゆっくりと温泉に浸かることが出来た。

今回はスノーシュー・ツアーも企画し、2日（土）に5名が上高地まで往復した。

但し、当日は、北海道での、吹雪による痛ましい事故があった様に、乗鞍も悪天候でスノーシュー組は景色が見えず、スキー組もリフトの運行が11時頃と遅れ、視界も悪く慎重に雪の状態を確かめながらのスキーとなった。しかし、翌日の3日（日）は、雲は多少あったが、風は無く、雪の状態も良い絶好のスキー日和。かもしかゲレンデの上から、御嶽、中央アルプス、遠く、南アルプスも眺める事ができた。

一時は大型バスで補助席も使う50名近くの参加者でしたが、近年、参加人数が減って来ている。

皆さま、是非、ご参加下さい。



▲快晴の乗鞍スキー場で（右側は大国OBのお孫さん）



▲全員集合（帰りのバスにて）

春のハイキング「高松山」の報告

幹事 齋藤延雄 (S45年卒)

松村幹雄 (S48年卒) 記

当初、不老山を計画していましたが、3月の下見の結果急遽、高松山に変更しました。

4月14日(日)の朝、新松田駅前にはOB20名と学生4名が集合し、バスを待つ間も楽しく盛り上がっていました。10時にリーダーをお願いした現役の中戸川さんを先頭に登山口から登り出しました。晴天の中、順調に高低差700mを縮めて行きます。ビリ堂からの急坂もなんのそのほぼコースタイムどおり12時には頂上に着きました。頂上の強風を避けて少し下った所で昼食休憩をとりました。ここからはOBも余裕で和気あいあいと話をしながら下って行きました。高松山入口で予定した3時台のバスが満員で乗れないため臨時バスを頼んで、4時過ぎに新松田駅に戻りました。駅前の居酒屋でビールを飲みながら懇親会でまた大いに盛り上がりしました。

新松田駅集合 9:00—高松山登山口 10:00—ビリ堂 11:30—高松山頂上 12:00—12:45—尺里峠 13:20—高松山入口 14:50

参加者 (敬称略)

上田、大国 (33卒)、
上田OG (34卒)、
清水 (36卒)、
恩田 (37卒)、
古林OG、松村、吉田 (38卒)、
笠原、井村 (40卒)、
斉藤、金子 (41卒)、
太郎良 (43卒)、
齋藤 (延) (45卒)、
新井、島田、福田 (46卒)、
豊田 (47卒)、
松村 (幹) (48卒)、
箕打 (49卒)、
増田 (幹事長・商4)、
中戸川 (現役・人3)、
渡邊 (新人・政3)、
三浦 (新人・商3)
計24名



▲全員集合 (高松山山頂)



▲全員集合 (ハイキング終了)

～～～大山登山とバーベキューの夕べ（ご案内）～～～ 松村幹雄（S48年卒）記

今年の秋のイベントは、学生時代を偲んで丹沢山塊の東部に位置する大山（1,252m）登山を計画しました。下山後は戸川林道を辿り、水無川上流の山小屋＜作治小屋＞に1泊しバーベキューとキャンプファイヤーを楽しむ企画です。是非皆様参加下さい。

○日 程：9月28日（土）～29日（日）

○集 合：9月28日（土）8時 小田急線 秦野駅改札（大山登山参加の場合）

9月28日（土）17時 作治小屋に各自集合（BBQのみ参加の場合）

○行 程：秦野駅（バス/48分）⇒ヤビツ峠（イタツミ尾根/60分）⇒大山頂上（60分）⇒下社（30分）⇒追分（10分）⇒大山ケーブル駅（バス/30分）⇒小田急伊勢原駅（7分）⇒小田急渋沢駅（バス/15分）⇒大倉（戸川林道/80分）⇒作治小屋（16時30分着）

17：30～19：30 ワイワイガヤガヤBBQを楽しみましょう。食材、お酒も十分に用意します。

20：00～ キャンプファイヤーを囲み、夜が更ける迄昔懐かしい山の歌を歌いましょう。

○会 費：男性 5000円、女性 3000円 学生・子供無料（BBQ、飲料、朝食、宿泊料） 大山登山のみに参加する方は無料です。

○連絡先：齋藤延雄（45年卒） yuiyui@zg7.so-net.ne.jp 080-4005-3934

松村幹雄（48年卒） mykof04@s5.dion.ne.jp 080-5175-9695

○申 込：9月21日（土）迄に、上記幹事宛に連絡願います。

○その他：寝具は山小屋で用意します。

大山登山の昼食及び洗面用具、懐中電灯、防寒着は各自ご用意願います。

9月29日（日）は朝食後（8時頃）解散となります。

以上

4月初めにメール配信にて「個人装備寄贈のお願い」をしたところ、打矢之威OB（37年卒）、小林伸吉OB（39年卒）、齋藤洋任OB（40年卒）、米山不器OB（53年卒）の皆様から多数の個人装備をご寄贈頂きました。厚く御礼申し上げます。しかしまだまだ不足していますので、引き続き「個人装備寄贈のお願い」をする次第です。

個人装備寄贈のお願い

役員会

稲門山の会OBGの皆様へ

ご存知の様に昨年度からの入会した現役学生が4～5名と今年も現在数名が「山の会」に入会する予定となっております。多くの学生は、「山の未経験者」で個人装備を含めて持っている学生は少なく、昨年も稲門山の会役員が個人的にあげたり、貸したりしています。他の大学山岳会も既に実施している個人装備の新人会員への貸与制度です。つきましては、皆様の家で眠っていて使っていない個人装備を現役学生会員のために寄贈をお願いする次第です。

ご寄贈頂く装備としては、ザック（大きさ制限無し）、レインウェア（上下セパレート型のもの）、山用衣類（カッターシャツ、パーカー、ズボン等）、登山靴（夏用・冬用）、シュラフ、マット、ハーネス（レッグループタイプのもの）、冬山用装備（メタルシャフトのピッケル、アイゼン（最近のはアジャストタイプ）、スパッツ、オーバーズボン、手袋、冬用ハードシェルなど）等どんなものでも結構です。一部は新人歓迎山行・夏合宿等に活用したいと思いますので、6月末までに下記宛先に宅配便（着払い）にてお送り下さい。OB・OGの皆様の暖かいご支援をよろしくお願い致します。

送付先：有限会社 オーク編集工房（稲門山の会事務局）

〒164-0003 東京都中野区東中野1丁目25-10 TEL：03-3367-3723 FAX：03-3367-8150

※お手数ですが、お送り頂たく品物の内容について下記連絡先（島田）まで事前にメールにてご連絡下さる様をお願い申し上げます。

担 当：島田弘康、松村幹雄、名達一彦、井村英明

連絡先：島田弘康（hiroyasu_shimada@nifty.com）

2012年度会計報告 (2012年1月1日～12月31日)

稲門山の会

単位：円

項 目	収 入	支 出	残 高	備 考 欄
前期からの繰越額 (預金・現金計)			4,973,488	
2月4日、新年会費用の精算 (大隈会館)		359,100		
新年会費 (6,000円×50名分)	300,000			
年会費@4,000円の入金・129.75名分	519,000			
(複数口の入金を調整して、実質121名の入金)				
金融機関等の預金受取利息	696			
現役のHomePage作成費用 (エッセンティア社)		33,600		現役の山の会のHP
稲門山の会HP管理費 (NTT SmartConnect) @2625×12ヶ月分		31,500		OB会の稲門山の会のHP
学生の山の会HP管理費 (NTT SmartConnect) @4725×10ヶ月分		47,250		現役の山の会のHP
東京都山岳連盟年会費		20,080		
稲山通信印刷費 (康印刷24号、25号2回分)		135,870		
50年誌発送費用		4,750		
銀行振込手数料		6,195		
春のハイキング費用補助		6,255		大野山
秋のキャンプ費用補助		6,721		チロリアン
お香典		10,000		納見OB
和田OB搜索費用		70,419		
現役への支援 (新人勧誘費用、教材費、装備費、歓迎会費用補助)		265,968		
収支合計	819,696	997,708	4,795,476	
項目別預金残高内訳書				
一般会計 郵便公社預金		①	498,519	通帳残高額を確認済
年会費入金振替郵便口座		②	791,600	通帳残高額を確認済
みずほ銀行口座		③	1,490,919	通帳残高額を確認済
特別会計 遭難対策費 (郵便定期預金①)		④	1,000,000	通帳残高額を確認済
遭難対策費 (みずほ銀行定期預金②)		⑤	1,014,438	通帳残高額を確認済
合計			4,795,476	
上記の会計報告を致します。2013年1月12日 会計幹事：新井昭夫 (尚、別途会計監事が銀行通帳残高書と照合済です)				

稲山会のイベント日程

役員会

本年後半から来年前半にかけての稲山会のイベント日程は以下の通りです。

2013年 9月28日・29日：秋のキャンプ

2014年 2月1日：新年会

2014年 2月28日から3月2日：春のスキー（予定につき、変更あり）

2014年 4月13日：春のハイキング

是非イベントに参加されたく、日程をメモしていただく様、お願い致します。

計報：2013年4月9日に森逸岳さん（S.47年卒）が逝去されました。故人を偲び、ご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

70歳になり山に登る自信を失いかけている身としては、せめて山の写真を撮ろうと思ひ、4月の後半に穂高岳を撮るため美ヶ原に、5月の初めに剣岳を撮るため富山を訪ねましたが、山は霞んで不首尾に終わりました。何故か後立山だけは良く撮れましたので、鹿島槍ヶ岳の写真添付しておきます。

今年の新年会には現役の女性が2名参加してくれました。新年会の写真は若さをテーマに選別してみました。今年の新人勧誘の成果から見て、来年の新年会はさらに若い人達が参加されるようで楽しみです。

今回は新井OBと倉川OBが興味ある投稿をしてくれました。新井OBの「南米山行」には、清水OB吉田OB、滝沢OBも参加され、中身の濃い紀行となっています。倉川OBの「(思い出) 赤石岳遭難救助活動」は、今年の5月の中高年の山岳遭難とダブリ、山は(救助活動を含め)周到的な準備と気力・体力が必要なこと思い出させてくれます。今後とも皆様の投稿を期待しております。

斉藤雄二（S41年卒）記

